

NO.	発生年月日	事業主体			事故概要	発生場所	事故類型	被災者			
		事業主体	工事分類	従事作業				年齢	性別	被害状況	
7月											
1	R4.7.1	2.政令市	1.管きよ開削	掘削工事	改良土で埋戻された固い地盤のガス管付近を電動ビックを用いて、ガス本管、供給管を確認しながら掘削作業していたが、防護措置が不十分であったことから、誤って電動ビックでガス管を破損させた。	現場内	12-2.公衆災害(物損)	-	-	-	ガス管の破損
2	R4.7.1	3.一般市	1.管きよ開削	掘削工事	汚水側の設置工事において、午前中から作業員がバックホウで作業していたが、途中から体調が悪くなったため、昼休みは事務所に帰り休憩していた。午後になっても体調が回復しないことから、作業は休んでいたが、その後、事務所で意識がなくなり、救急車が到着した時には既に心臓停止で、蘇生を行ったが死亡が確認された。	現場内	14.その他	68	男	死亡(熱中症関連)	
3	R4.7.1	2.政令市	4.管きよその他	土質調査	下水道耐震工事のための土質調査(ボーリング調査)を車道上で実施していたところ、交通誘導員が交通整理中に倒れ、搬送された病院で死亡が確認された。	現場内	14.その他	39	男	死亡(熱中症関連)	
4	R4.7.5	1.都道府県	5.処ボ土木建築	地盤改良作業	地盤改良作業が終了したプラント内の清掃作業において、作業員がセメントの塊を取り除こうとして回転中の攪拌機内に手を伸ばしたところ、攪拌機の回転体に右腕が巻き込まれ、被災した。	現場内	2.はさまれ・巻き込まれ	33	男	右腕の裂傷(入院1か月)	
5	R4.7.6	3.一般市	5.処ボ土木建築	コンクリート打設	浄化センターにおける反応水路(オキシデーションディッチ)の建設工事において、底版壁コンクリート打設を終え、頂版の打設に切り替えるため、作業員が水路上部で生コン打設用ホースの引抜作業を行っていたところ、作業の途中で少し高い所にあったエアホースの外し忘れに気づき、高さを稼ぐために近くにあった単管枠に右足を掛けて外そうとした際、単管枠もろとも転倒し被災した。	現場内	5.転倒	62	男	左足大腿骨骨折	
6	R4.7.6	2.政令市	2.管きよ推進	人孔設置工	人孔設置・汚水側設置作業中にφ900ケーシング内に作業員が入って、仮止めしているフラットバーを切断するため、切断機(サンダー)で切断していたところ、回転している刃がフラットバーに引っ掛かりサンダーが跳ねた衝撃により左頬付近と左手首付近に接触し、被災した。	現場内	4.切れ・こすれ	61	男	左頬付近・左手首付近に深い切り傷	
7	R4.7.8	3.一般市	1.管きよ開削	土留作業	建込み簡易土留の土留幅調整中に手がすべて転倒し、高さ1.5mから墜落し被災した。	現場内	1.墜落・転落	54	男	頭部の負傷	
8	R4.7.10	3.一般市	3.管きよシールド	シールド工	シールド坑内における蓄電池式機関車を用いた鋼製セグメントの運搬作業において、台車にセグメントを乗せて、機関車を始動させた際、荷のセグメントがずれてしまったため、機関車の運転手が機関車とセグメントの間に入り、セグメントのずれを直そうとしたところ、操作を誤って機関車を前進させてしまい、機関車とセグメントに挟まれ、被災した。	現場内	2.はさまれ・巻き込まれ	50	男	外腿骨動脈損傷、腸管損傷、右骨盤骨折、横突起骨折	
9	R4.7.11	1.都道府県	1.管きよ開削	掘削工事	バックホウで掘削作業中、既存ガス管の埋設シートを確認した上で、残置されていた鋼矢板を露出させようとバケットを土中に入れた際、誤ってガス供給管を損傷させた。	現場内	12-2.公衆災害(物損)	-	-	ガス管の破損	
10	R4.7.11	2.政令市	1.管きよ開削	掘削工事	既設取付管を撤去するにあたり、近接する水道管及びガス本管の位置は手摺りにて確認していたが、ガス供給管の埋設位置は未確認の状態であったバックホウによる掘削を行い、ガス供給管の立ち上げ部をバックホウのツメ部分にて損傷させた。	現場内	12-2.公衆災害(物損)	-	-	ガス管の破損	

NO.	発生年月日	事業主体			事故概要	発生場所	事故類型	被災者		
		事業主体	工事分類	従事作業				年齢	性別	被害状況
11	R4.7.20	4.町村	1.管きよ開削	解体作業	作業ヤード付近で、鋼製土留パネル(たて込み簡易土留め)の解体作業中をしていたところ、土留めのパネルが倒れ、近くで作業していた作業員にあたり、被災した。	現場内	2.はさまれ・巻き込まれ	70	男	両足骨折
12	R4.7.21	1.都道府県	6.処ボ機械電気	片付け作業	汚泥貯留槽の防食工事において、No.2汚泥貯留槽内の防食塗装を完了させ、内部の破片付け(足場・送風機は撤去、供用中のNo.1汚泥貯留槽と繋がるオーバーフロー管は通風、マンホール蓋の換気口は開放)を続けていた。事故当日、作業員は貯留槽外部の破片付けを1人でやり、上司に作業終了の連絡をしたが、翌朝に槽内で倒れている状態を現場代理人が発見された。現場に到着した救急隊員が作業員を救出したが、死亡が確認された。	現場内	14.その他	23	男	死亡
13	R4.7.25	3.一般市	6.処ボ機械電気	左官作業	2階電気室内において、シンダーコンクリートの押さえ作業を実施していた作業員が、床開口部の養生蓋(コンパネ)の上に乗って作業をしていたところ、養生蓋が外れ、約2.7m下のEPS床に落下し、被災した。	現場内	1.墜落・転落	63	男	第12胸椎圧迫骨折
14	R4.7.26	1.都道府県	1.管きよ開削	掘削作業	ます・取付管撤去新設のため、バックホウにて掘削作業を進めていたところ、ガス供給管を損傷させた。	現場内	12-2.公衆災害(物損)	-	-	ガス管の破損

■:死亡事故 □:負傷事故 ▨:物損事故

NO.	発生日月	事故情報			事故概要・対応	
		事業主体	発生施設	事故類型	事故概要	事故への対応
7月						
1	R4.7.7	2.政令市	処理場	水質事故	②悪質下水の流入(放流水質が基準値に適合)	下水処理場に悪質下水が流入し、一時的に流入下水のpH計において、pH3として酸性となっていることを観測した。 *緊急対応として、薬剤を注入し中和措置を行った。 *継続して沈砂池及び放流水の監視を行い、pH7前後として中性となっていることを観測した。 *事業所から悪質下水が流出したと想定されるが、発生源は不明。
2	R4.7.7	3.一般市	管渠	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	管渠内が異物で閉塞したことにより、マンホールから汚水が溢水した。 *緊急対応として、閉塞物除去作業を実施し、閉塞原因となっていた木材、布を除去し通水確認後、現地清掃、消毒を実施。 *原因者特定が困難であるが、市報等の広報を通じ注意喚起を予定。
3	R4.7.15	3.一般市	管渠	水質事故	⑤下水道施設からの下水等の流出	市民から道路上へ汚水が流出しているとの通報を受け、現地調査を実施したところ、道路上への汚水流出を確認した。現地掃削を実施したところ、管路が腐食しており、汚水が漏水していることが判明した。 *緊急対応として、流出した汚水をバキューム車で回収、破損箇所を特定し、応急修繕を実施。 *今回、破損管路は海に近接していたことから、海水による塩害が主な原因と想定されるが、メーカー、コンサルタント等を含め詳細の原因調査及び再発防止対策を検討中。

4.水質事故等
(令和4年7月末時点)

[総括]	[内訳]												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
水質事故等	3 (2)	5 (3)	6 (1)	3 (2)									17 (8)
累計	3 (2)	8 (5)	14 (6)	17 (8)									-

[内訳]	[内訳]												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
事業主体	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (1)									3 (1)
1. 都道府県													
2. 政令市	2 (0)	3 (2)	2 (0)	1 (0)									8 (2)
3. 一般市	0 (2)	1 (1)	2 (1)	2 (1)									5 (5)
4. 町村	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)									1 (0)
5. その他	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
合計	3 (2)	5 (3)	6 (1)	3 (2)									17 (8)
発生施設	1 (2)	1 (1)	4 (0)	2 (1)									8 (4)
1. マンホール	0 (0)	1 (0)	0 (1)	0 (0)									1 (1)
3. 処理場	1 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)									3 (1)
4. ホンゾ場	1 (0)	2 (1)	0 (0)	0 (0)									3 (1)
5. その他	0 (0)	0 (1)	2 (0)	0 (0)									2 (1)
合計	3 (2)	5 (3)	6 (1)	3 (2)									17 (8)
原因者	3 (0)	1 (1)	1 (0)	0 (0)									5 (1)
1. 下水道管理者(委託先含む)	0 (2)	1 (1)	1 (1)	2 (0)									4 (4)
2. 民間事業者(一般人を含む)	0 (0)	3 (1)	4 (0)	1 (2)									8 (3)
3. その他(天災、原因者不明含む)	3 (2)	5 (3)	6 (1)	3 (2)									17 (8)
合計	1 (0)	1 (0)	1 (0)	0 (0)									2 (0)
事故類型	0 (0)	0 (0)	1 (0)	1 (0)									2 (0)
① 悪質下水の流入(放流水質が基準に不適合)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)									1 (1)
② 悪質下水の流入(放流水質が基準に適合)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (1)									0 (1)
③ 悪質下水の流入によらない放流水質の基準不適合	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (1)
④ 雨水管からの悪質下水の流出	2 (1)	1 (0)	3 (1)	2 (1)									8 (3)
⑤ 下水道施設からの下水等の流出	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)									0 (1)
⑥ その他事故(①~⑤以外の事故)	3 (2)	3 (1)	4 (1)	3 (2)									13 (6)
水質事故 合計	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)									0 (1)
その他案件	0 (0)	2 (2)	2 (0)	0 (0)									4 (2)
水質事故等 合計	3 (2)	5 (3)	6 (1)	3 (2)									17 (8)
状況分類	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
① 耐用年数経過	1 (1)	0 (2)	2 (0)	1 (1)									4 (4)
② 耐用年数以内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)									0 (0)
③ 天災等	1 (1)	0 (2)	2 (0)	1 (1)									4 (4)
合計	1 (1)	0 (2)	2 (0)	1 (1)									4 (4)

※状況分類については水質事故等において、事故発生原因が下水道施設の損傷または設備の故障によるものを集計
※()書きは、前年度(令和3年度)の値
※国土交通省へ報告のあった事故について集計

